

令和5年5月20日

第18回「これからの算数・数学教育を考える会」

現場からみる対話型AI活用の模索

京都教育大学附属高校
吉田耕平

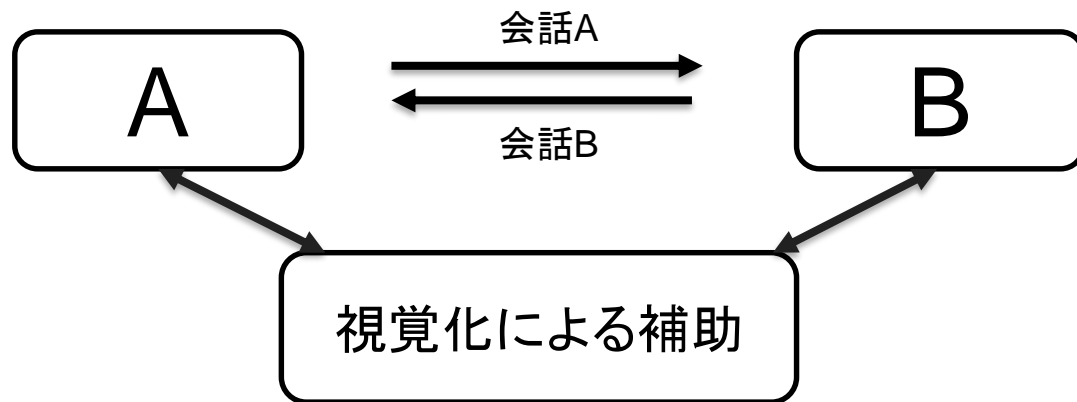
はじめに

対話型AIの役割を明確にするため、次の3つについて確認していく。

- 学びを視覚化する意味付け
- 学びの視覚化について
- 対話型AIの活用の模索

学びを視覚化する意味づけ

- 共通の視覚化により、会話の表現による齟齬を無くす。
- 視覚化により自分の考えを顕在化する。
- 視覚化を記録することで過去の自分の考えを振り返る。



例

1. A : 教員、B : 生徒
2. A : 生徒、B : 生徒
3. A : 過去の自分、
B : 現在の自分

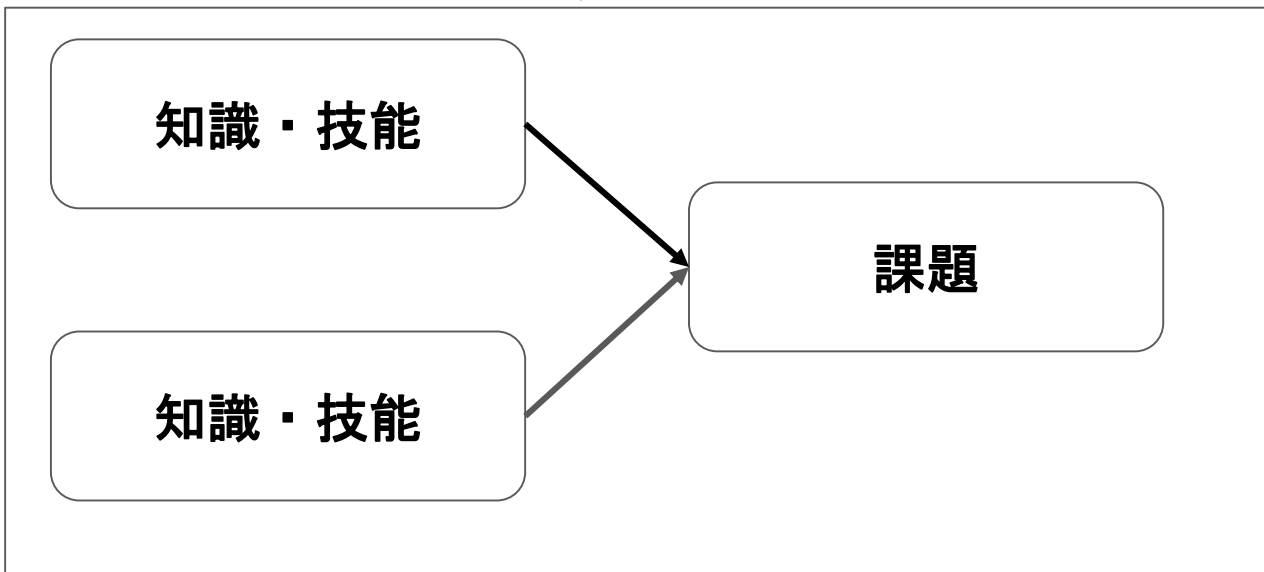
学びの視覚化について

- 3 観点から考える視覚化
 - 「知識・技能」
 - 「思考・判断・表現」
 - 「主体的に学習に取り組む態度」

学びの視覚化について

* 複数の「知識・技能」により、「思考・判断・表現」となる。

思考・判断・表現



学びの視覚化について

1次方程式を解け。

$$3x - 6 = 3$$

$$3x = 3 + 6$$

$$3x = 9$$

$$x = 3$$

視覚化

移項

6

両辺を割る

4

1次方程式を
解く

数字は重要度

学びの視覚化について

「主体的に学習に取り組む態度」については

- 視覚化を行う
- その「重み」を変え考える
- 「知識・技能」を新たに増やす

とする。

対話型AIの活用の模索

- 「視覚化を行う」の補助として
- 「知識・技能」について理解を深めるため